

## 看護学生の私的スピリチュアリティ (SRS) と首尾一貫感覚 (SOC) の関連性

○山田恵子, 比嘉勇人, 田中いずみ

富山大学大学院 医学薬学研究部 (医学)

### 【目的】

本研究では、こころの構造を「スピリチュアルな能動的意識」と「メンタルな受動的意識」の多重構造であると仮定してその仮説モデル(こころの多重構造モデル)の妥当性を検討し、看護学生の私的スピリチュアリティ(こころの内発的なつながり性)と首尾一貫感覚(こころの刺激反応的な対応性)の関連性を検証する。

### 【方法】

調査は、富山大学臨床・疫学等に関する倫理審査委員会の承認を得て2011年10月4日～同年10月6日に実施した。分析対象は、研究参加に同意したA大学の看護学生1～3年生216名の有効回答者212名とした。

「能動的意識」を測定するために、私的スピリチュアリティ評価尺度(SRS-A)を用いた。SRS-Aは、「意欲(望みを成し遂げようとするこころ)」「深心(深く求めたことを信じるこころ)」「意味感(意味づけを実感するこころ)」「自覚(自分自身を感じるこころ)」「価値観(自己基準を思い抱くこころ)」で構成された15項目5件法の質問紙である。

「受動的意識」を測定するために、首尾一貫感覚尺度(SOC-13)を用いた。SOC-13は、「把握可能感(状況に応じた予測と説明ができ)」「処理可能感(状況に対応するための資源が得られ)」「有意味感(その状況に自己投入する意味が有る)」という状況刺激に対する確信で構成された13項目5件法の質問紙である。

統計的分析は、SPSS Amos19を使用して仮説モデルの共分散構造分析を行いその妥当性を検討した。

### 【結果】

最終的に得られた仮説モデルの適合度は、GFI=0.98, AGIF=0.95の値を有し、RMSEA=0.04を示した。モデル各部の影響指数(因果係数)に関しては、SOC-13とSRS-Aの観測変数「意味感」「自覚」「価値観」が0.35～0.83、SRS-AとSOC-13の観測変数「有意味感」が0.57を有し、SRS-AとSOC-13の相関係数は0.29を示していた。各係数値については、すべて統計的に有意であった( $p<0.02$ )。

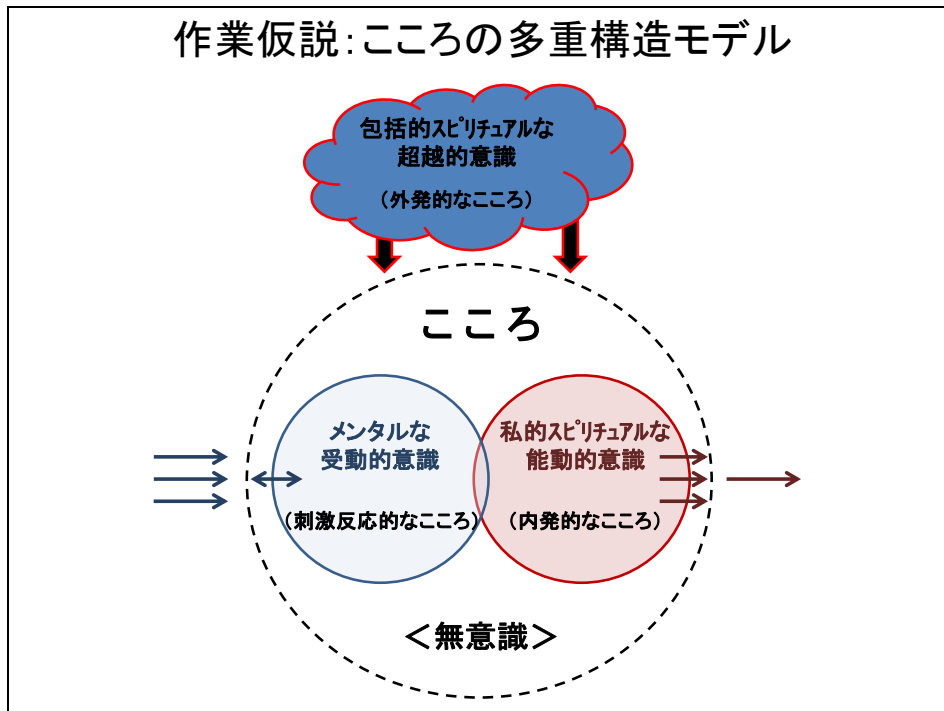
以上の結果より、最終仮説モデル(こころの多重構造モデル)が概ね高い説明力を有していること、また潜在変数と観測変数とが概ね適切に対応していることが示唆された。

### 【考察】

SOC-13のSRS-A変数「意味感」「自覚」「価値観」への影響指数からは、刺激反応的な受動的意識が内発的な能動的意識より上位に機能していることが推察された。また、SRS-AのSOC-13変数「有意味感」への影響指数からは、内発的な能動的意識が刺激反応的な受動的意識より上位に機能していることが推察された。

これら変数間の因果関係およびSRS-AとSOC-13の相関関係から「こころの多重構造モデル」が容認され、私的スピリチュアリティ(SRS)と首尾一貫感覚(SOC)の機能統合的な相互関連性が確認された。

## 作業仮説:こころの多重構造モデル



## 結果:仮説モデル③(こころの多重構造モデル)

